

平成29年度秋田県総合政策審議会第3回ふるさと定着回帰部会（議事録要旨）

1 日時 平成29年8月8日（火）15:00～17:10

2 場所 議会棟大会議室

3 出席者（敬称略）

【ふるさと定着回帰部会委員】

藤原はるみ（幼保連携型認定こども園勝平幼稚園・ひよこ保育園園長）

藤原 弘章（NPO法人ふじさと元気塾理事長）

山崎 純（NPO法人子育て応援Seed理事長）

山本 智（農園レストラン「ハーベリー」代表）

伊藤 晴樹（男鹿市地域おこし協力隊員）

熊澤由紀代（秋田大学医学部付属病院産科婦人科講師）

【県】

高橋 修（あきた未来創造部次長）

真壁 善男（あきた未来創造部あきた未来戦略課長）

橋本 秀樹（あきた未来創造部あきた未来戦略課政策監）

神谷 美来（あきた未来創造部次世代・女性活躍支援課長）

水澤 里利（あきた未来創造部次世代・女性活躍支援課政策監）

坂本 雅和（あきた未来創造部地域の元気創造課長）

小西 弘紀（企画振興部市町村課長）

伊藤 仁志（健康福祉部国保改革準備・医療指導室長）

竹村 勉（建設部都市計画課長）

鈴木 和朗（教育庁幼保推進課長）

沢屋 和世（教育庁生涯学習課長）

4 あいさつ（高橋あきた未来創造部次長）

- ・ 現在各地で知事と県民の意見交換会を開催するなど、プランの作成作業も佳境に入っている。
- ・ 本日も有意義な議論をいただき、プランに反映させていきたいと考えているので、よろしく願います。

5 議事

（1）第3期プランふるさと定着回帰戦略（仮称）骨子案について

●山本部長

- ・ 本日は骨子案を概ね固めるため、熱心な議論をお願いします。
- ・ 最初に骨子案について、ポイントを事務局から説明してもらいたい。

□真壁あきた未来戦略課長

骨子案について及びこれまでの部会での意見の状況について部会資料－１、２により説明

●山本部長

- ・ 各施策ごとの意見をいただく前に、全体的な意見があれば各委員からお願いしたい。
- ・ まず、私から質問だが、県では例えば移住した人や移住しようとする人、県内の高校生や県外に進学した大学生、子育てしている母親や父親の生の声をどのように聞いているのか、意見を吸い上げるような機構があるのか。市町村や各種協議会などからまとめてデータをとっているものなのか。

□高橋あきた未来創造部次長

- ・ いろいろなパターンがあるが、現場に近いところでは、セミナーやフォーラム、移住であれば移住フェアなどに職員も必ず出席して意見を聴くようにしている。その他にも大規模なアンケートをするケースもあり、子育てであればH27年度に行っている。
- ・ 他に市町村の担当者との会議は頻繁に行われる。また、県民から直接いろいろな意見が寄せられることもあり、各職員は情報を共有している。
- ・ 我々も現場に出向くようにこころがけている。

●山本部長

- ・ 昨年の議論の中では、ポイントとして当事者目線と客観目線という話があった。このテーマでは団体や協議会としてまとまった母体があるわけではなく、県民が個人としてかわる部分が多い分野だと思う。
- ・ この施策が本当にいいかどうか、検証・再設計していく必要があり、その点は骨子案にも取り上げてもらっているのが良いと思うが、今後行政だけでなく、NPOだったり学生団体だったり、子育て団体だったり多様な主体と関わって進めていかなければならない。
- ・ ITシステムでたとえると、いくらよいアプリケーションがあっても、そのバックにあるインフラがしっかりしていないといけない。どうしても施策はアプリ的なものになっているが、県民の生の声をどうすくい上げて施策に反映していくかというシステムづくりが最も大きな課題になるのではないか。
- ・ シンクタンクの話は今いきなりつくってどうなるものでもなく、骨子案には載せようが

ないわけだが、現在、国際教養大学のある先生と若手の地域おこしのメンバー、東大の大学院生などの活動の芽や、五城目のソーシャルラボ、国際教養大学のFROMプロジェクトなどの芽があるので、そういうところを支援し、育てていく中で、シンクタンクのようなものになっていくのが望ましいのではないかと思う。

- ・ それぞれの施策、花や実の部分を進めていくのはもちろんいいのだが、幹の部分やいい土をつくることをもっと考える仕組みづくりが最も必要になってくる。
- ・ 昨年も提言したことで、今年も一部提言に向かうことになるが、行政と県民が対峙するのではなく、人口が減るということはどういうことなのか、秋田は将来どうなるのか、どのような青写真を書けばよいのか、どのような道を選ぶべきか、展望をつくるにはどうすればよいのか、そういう未来を描いて県民が、行政がそれぞれどのような役割を果たすのかということを考えていかなければならない。そのための仕組みが必要であるということである。

●伊藤委員

- ・ NPOだけ、行政だけでなく様々な主体が連携していかないといけない。
- ・ 学生団体だけでは回らなくなっていて、マッチングだったり支援する仕組みが必要であると思っている。

●山崎委員

- ・ 部会長の言われた土づくりは重要である。個々の施策は重要だと思うが、県民一人一人が主体性を持って生きていくことを行政として支援して行ってほしい。

●山本部長

- ・ 個々の施策について、意見をいただきたい。
- ・ 県内の大学生と県外の大学生それぞれの定着率は把握できるのか。

□高橋あきた未来創造部次長

- ・ 県外の大学生の数は把握できない。県内の大学生は、看護・福祉系は高く、理工系は低い。高校生は県内就職率は65%であり、大きな数値の伸びは期待できないので、県外の大学生・専門学校生をいかにして回帰させるかが大きな課題である。

●山崎委員

- ・ 県内でも、Aターンの率に差があり、秋田市は低いと聞いたことがあるが、地域差はあるのか。

□高橋あきた未来創造部次長

- ・ 正確なデータはないが、30歳の定着率というデータがある。15歳から30歳まででどのくらいの人が残っているか比較すると、大館、鹿角、北秋田、仙北、平鹿、雄勝が高く、男鹿南秋、秋田、由利が低い。
- ・ 昔は秋田市にダム効果があったものが、県内各地から直接県外に転出する数が多くなっているのではないかと感じている。人口が多い男鹿南秋、秋田地域に若者を引きつける魅力があれば、秋田市で流出が止まることもあるのではないかと感じている。

●山崎委員

- ・ そういった細かい分析を行って、一つ一つ丁寧に対策を行うことで効果が出てくるのではないかと感じている。

□真壁あきた未来戦略課長

- ・ 大学生の県内定着について補足すると、平成19年卒業の高校生を対象とした推計では、県内高校を卒業して県外大学に進学した5,200人の内2,170人、42%が県内に就職している。
- ・ 一方で県内大学生について、県内4年制大学からの県内就職率は33%である。県外出身者も含む数ではあるが、県内大学は連携してCOC+という文部科学省の事業を実施して県内就職率の向上に取り組んでいる。
- ・ 短期大学については、県内就職率は75%と高い水準である。

□高橋あきた未来創造部次長

- ・ 高校についても、地域によって差が出ているので、各高校に出向いて直接進路指導担当者とお話して分析を行い、何か対策を打てないか検討しているところである。

●伊藤委員

- ・ 国際教養大学も県内就職率は低い。
- ・ なかなか学生が秋田の魅力に触れる機会がない。知り合いには秋田の魅力に触れて秋田に住むことを決めた人もいる。そういったことで県内への定着を増やせないか。
- ・ 理工系はそもそも県外就職が多い。学生はそれほど県内企業の情報を仕入れていない。県内にも素晴らしい企業があるのに、マッチングが上手くいっていないのではないかと感じている。

●山本部長

- ・ マッチングについては、骨子案にあるようなインターンシップの充実などの対策が必要ということか。

●伊藤委員

- ・ 就職を意識して学生が動くのは2年生の終わりぐらいからなので、もっと早く1年生などの時期からガイダンスなどで情報に触れる機会があればいいのではないか。

●山本部長

- ・ そちら辺は大学と連携して進めていくといいのではないか。

□高橋あきた未来創造部次長

- ・ 先ほど話に出たが、COC+という事業で、秋田大学、県立大学、高専が県内就職の促進に取り組んでいる。具体的にはマッチングや、県内企業の情報提供、そして秋田の魅力を知ってもらう「秋田学」をカリキュラムに取り入れるなどの取組を行っている。
- ・ 今年の県内就職の実績は下がっている。現在の経済情勢では賃金格差は大きく、賃金以外の魅力をいかに伝えていくかが課題である。また、企業とのマッチングでは、就職説明会の前段階で共同研究などの機会に企業を知ってもらったり、大学で取り組むインターンシップに参加する企業の掘り起こしなど、県も連携した取組を行っている。

●藤原弘章委員

- ・ 先ほど伊藤委員が話していたような、県外から来て秋田県の魅力に触れ、秋田に残る人をいかに増やしていくかが大事である。
- ・ 自分の知り合いにも地域の活動に触れて秋田に残ろうとする人がいる。企業だけでなく、地域ともマッチングの取組があればよいのではないか。

●山本部長

- ・ 施策3の中に「若者の活躍」という言葉がある。前回の部会では、若者の定着の上で、地域活動などへの参加が必要という議論があったが、施策1ではなくここに包括して記載されていると考えてよいのか。

□高橋あきた未来創造部次長

- ・ それぞれの施策が独立したものでなく、関連しているものである。全体で人口減少対策を図ると受け取っていただいていい。

●山本部長

- ・ 細かい話だが、「ご縁アプリ」が一番最初に来るのは違和感があるが、特に順番にこだわりがあるのか。

□真壁あきた未来戦略課長

- ・ ご意見を受けて、入れ替えを検討したい。

●藤原弘章委員

- ・ 移住については、市町村が主体となるわけだが、例えば県がブースを設けるのはいいとして、藤里町単独ではなかなか成果をあげられない。
- ・ 今は能代山本地域がまとまるなど広域の取組を考えているが、ある程度まとまった動きになるといいのではないか。

□移住・定住促進課担当者

- ・ 地域振興局も含めて話し合いたい。
- ・ 各市町村によって事情はそれぞれだと思うが、県と市町村、NPOのそれぞれがよい面を出して、協力してやっていければと考えている。

●山本部長

- ・ 移住の取組は、移住してきた人たちの意見をフィードバックして取り組んでいく段階になってきているのかなと思う。
- ・ 施策2について、意見を願います。

●山崎委員

- ・ 効果的な情報発信についてだが、前回は発言したが、具体的にはどのような点で今までと違う情報発信ができるのか。

□神谷次世代・女性活躍支援課長

- ・ 具体的にはこれから検討することとなるが、これまでは紙ベースやHPによる情報発信だったが、SNSを利用するなど、子育て世代に届くような媒体を利用していきたい。
- ・ 一方で子育て世代の親世代にも秋田の子育てについて、知っていただく必要があるので、従来の手法も含めて全体的な周知を図っていきたい。

●藤原はるみ委員

- ・ 先日子育て応援団あきたのイベントがあり、かなりたくさんの方が集まり活況であった。行政、企業、幼稚園や保育園など多く集まる機会を得て、みんなで情報発信をするのはとても大事なことだと感じた。
- ・ 県外からも多くの方が来ていたようだ。

□神谷次世代・女性活躍支援課長

- ・ 今年初めて実施した取組としては、結婚支援センターの1,000人目の成婚報告者カップルを祝うイベントや、マッチングシステムのデモを実施した。せっかく大きなイベント

となったので、こちらも活用していきたい。

●山本部長

- ・ サポーターをしている藤原弘章委員にお聞きしたいが、結婚支援センターについて、センターに登録するのに何らかの壁というか、抵抗はあるものなのか。

●藤原弘章委員

- ・ 藤里町の例となるが、チラシを配ってもなかなか登録してもらえない。昼間は休めなかったり、距離的に大館まで行かなければいけないことなどがある。また、小さい町なので町内の人同士は顔見知りばかりで難しい。

□神谷次世代・女性活躍支援課長

- ・ 確かに登録してもらえないと進まないことである。今回の1,000人突破というのはよい機会で、新聞に取り上げられたのを機に登録が増えたという話もセンターから聞いている。心理的な障壁を取り除くのは必要だと認識している。
- ・ センターまでの距離については、出張相談により距離のハードルを下げる取組も検討している。

●山本部長

- ・ 妊娠出産に関する支援について、熊澤委員からなにか意見はないか。

●熊澤委員

- ・ 必要なことは記載されていると思うので、このまま続けてもらえばよい。

●藤原はるみ委員

- ・ 保育士の確保についてだが、育休などの保育士を代替する保育者を確保する取組について、本日秋田市と話し合いをしたところである。
- ・ 保育士の資格がなくても、子育て支援員研修を受けた方が担い手となればよいのではないかという話になった。代替職員が短期で入れ替わるのではなく、例えば1年間とかある程度長い期間勤めてくれる人がいれば安心できるということを話してきた。

□鈴木幼保推進課長

- ・ 昨年山崎委員から育休等の保育士の代替の確保が必要であるとの意見を受け、秋田市と話し合いを進めてきたところである。
- ・ 今年度から、産休期間に代替の保育士を雇用した場合に県が100%費用を助成する制度を開始したところであり、7月までに18人が利用されている。その効果を検証して考

えていきたい。

- ・ 保育士の資格がない場合には、みなし保育士として子育て支援員の育成を県内3地区に分けてそれぞれ40名の研修を考えており、保育環境を少しでも改善するよう取り組んでいる。

●山本部会長

- ・ 子育て世帯への経済的支援については、従来から充実させてきた取組と認識しているが、これまでの取組を継続するということがよいか。

□高橋あきた未来創造部次長

- ・ 保育料助成については、更なる拡充を検討しているところである。限られた財源をどう配分するか、在宅と保育所での保育との公平性等や必要とされる時期が幼少期か、教育費のかかる中高生以降なのか、など様々な要素を検討していく必要がある。
- ・ いずれにしても、子どもたちが進学をあきらめたりしないような支援を考えていきたい。

●山本部会長

- ・ これらのサービスについては、サービスを受容するために特に手続き等は必要ないものなのか。

□高橋あきた未来創造部次長

- ・ 保育料助成は保育所において、保育料を減額又は免除するし、医療費助成は医療機関の窓口で無料になる。リフォーム助成や、奨学金返還助成は申請に対して助成金を支払う形になる。

●山本部会長

- ・ 女性が働きやすい職場づくりという取組があるが、実際に仕事をされている女性の委員に意見を伺ってみたい。

●熊澤委員

- ・ 取組についてはわかりやすくはないか。
- ・ 「延長保育、病児保育を実施する事業主体への支援」とはどのようなものか。

□神谷次世代・女性活躍支援課長

- ・ 国と協調して市町村に対して補助し、市町村が各施設に補助する。そういった事業を運営するための補助である。

●山崎委員

- ・ 女性が働きやすい職場というのは、やはり休みたいときに休める職場であり、そういう取組に対する支援があれば良いと思う。
- ・ 子育てと仕事の両立が唱われているが、介護ということも考慮してはどうか。

●藤原はるみ委員

- ・ 一生懸命仕事をして、メリハリを付けて休めるように、職場の体制を確保するとともに、女性も男性も休みをとって当たり前というように、男性の理解も必要だと感じている。

●山本部長

- ・ 県では、ワーク・ライフ・バランスの取組をしている企業を表彰するなどの事業を行っているようだが、その成果として、企業側の意識は変わってきているだろうか。

□高橋あきた未来創造部次長

- ・ 表彰にあたって、ヒアリングを行いアドバイスをしていることもあって、時間休の制度導入が進んだり、表彰された企業を見て他の企業に取組が波及するなどの動きは出てきている。
- ・ 本県では女性の県外流出が多いのが課題であり、県内の企業でPRを行うことで若い女性を定着させたいという視点で取り組んでいきたい。

●藤原弘章委員

- ・ 地域活性化の取組支援ということでは、中間支援団体に関わってもらっているが、中間支援団体はワークショップやシンポジウムなどで広く呼びかける取組をしている。それも大事なことだが、地域で具体的に取り組んでいるNPOに若者たちにかかわってもらい、住民と直接接する機会があれば地域について考える若者が増えてくれるのではないかと感じている。

●山本部長

- ・ 最近若者たちはSNSでつながって、様々な活動の裾野がひろがっているが、こうしたものに中高年が入ってこない。地域のある程度の年配の人の知恵や技をコーディネートして若者に伝えていく動きが必要であると思っている。
- ・ 五城目のドチャペンのコンペの際に、地元の中高年者が全然いなかった。そういうギャップをどう埋めるか。若者の活動にシニアが入り、NPOの活動に若者が入るようになってほしい。

●伊藤委員

- ・ 能代市桧山で炭窯を復活させるプロジェクトで、若者と地元の方とのマッチングが上手くいった例もある。

●山本部長

- ・ 施策3と施策4はそれぞれ若者の活躍と小さくなるコミュニティの維持という視点ではあるが、これらは混在していくものと考えている。

●藤原弘章委員

- ・ NPOの継続に向けて最も大きい課題は予算であり、毎年度どうやって予算を確保するか悩んでいる。自主財源の確保ができず、どうしても行政からの業務委託などに頼りがちである。
- ・ 担い手も中高年が多く、若い人を取り込まないと活動を継続できないので、次世代のリーダーを育てることを意識していかないといけない。

●伊藤委員

- ・ リーダーになれと言われてすぐにリーダーになれるものではない。ステップを踏んでリーダーになるためには教育が大事ではないか。地域活動の場に若いメンバーを加えて、リーダー育成する取組ができればいいが時間はかかる。

●山本部長

- ・ 地域で活動しているNPOと若者団体や企業、地域外の個人などをマッチングさせる機会はないのか。

□坂本地域の元気創造課長

- ・ 中間支援NPOについては、社会貢献する企業とNPOのマッチングや、収益事業を行うコミュニティビジネスを行う場合の支援などを行っている。例としてはスギッチファンドのような形がある。
- ・ NPOの担い手対策については、人口減少社会において多世代交流が重要と考えている。お年寄りから子どもまでの協働の活動が地域づくりにつながっていくのではないかと考えている。
- ・ 県南のNPOでは広報誌の取材を高校生にお願いしている例があり、高校生の社会活動につながっている。こうした活動を全県に広げていければと考えている。

□高橋あきた未来創造部次長

- ・ 県内のNPOは県外に目を向けることが少なく、全国的な団体への申請による資金確保に取り組む団体がこれまで少なかったのが課題である。最近ではクラウドファンディングの利用などもあり、中間支援NPOももちろん支援していくが、NPO自身が自らの

ミッションを全国にアピールしていくなど、積極的に取り組んでいく必要がある。

- ・ 高校生など若い人が地域活動に参加するのは、一種学習であり、そこで地域活動を学ぶのはもちろんすばらしいことだが、実際の活動の本筋は社会人が行うべきものであることは留意していただきたい。

●藤原弘章委員

- ・ 中間支援NPOの活動を否定しているわけではなく、我々が切実に財源を必要としているのは、そこに雇用が生じているからである。行政におんぶにだっこというつもりはないが、マッチングについてなんらかの支援があればという願いである。

●山本部長

- ・ 施策4の方向性⑤県・市町村間の協働推進に、「平鹿地域における県と横手市の一元的な事業実施の手法」とあるが、これは具体的にはどのような手法か。

□小西市町村課長

- ・ 平鹿地域振興局管内は市町村合併により横手市1市となっている。県と市で重複していたり、一体的に実施した方が効率的な事務があるのではないかということで、例えば建築確認の部門などはワンフロアで窓口を設けたり、PR部門について一体で行ったりというようなことをやっている。
- ・ 他の地域では1振興局1市というようなところはないが、モデルケースとして普及していきたいという趣旨である。

●山本部長

- ・ 施策4の方向性⑤、⑥については、人口減少社会にあって行政サービスの質をなるべく落とさずに効率的に行おうということだと思うが、これらの中長期的に検討している組織はあるのか。

□小西市町村課長

- ・ **知事**、市町村長が集まって提案**しあ**う会があるほか、市町村課では5年ほど前に市町村にアンケートをとり、それぞれのテーマで部会を設けて検討している。**そのほか**、インフラについては建設部が所管となるが、例えば下水道については担当する下水道課において検討している。

●山本部長

- ・ CCRCやコンパクトシティなどでは、部局横断的に検討する必要があるのではないか。

□小西市町村課長

- ・ CCRCなどについては、まちづくりの観点から取り組んでおり、インフラの確保や行政サービスの水準の維持といったものとは方向性が違うと考えている。

●山本部長

- ・ 骨子案についての意見交換はこれで一通り終了とし、追加で意見がある場合はメール等で提出いただきたい。
- ・ この後提言を策定するにあたって、その進め方について事務局で何か考えがあれば聞かせてほしい。

□真壁あきた未来戦略課長

- ・ 今年は第3期プランの策定に向け、戦略1の取組に即して提言をいただくこととなる
- ・ 総括的な意見を書いたうえで、それぞれのテーマについての意見を記載していくこととなる。2期プランの際の提言については、3つのテーマで提言を作成した。
- ・ 今回も部会の意見として提言を作成いただくが、事務局からも何らかの叩き台をお示ししたいと考えている。

●山本部長

- ・ 今後のスケジュールはどうか。

□真壁あきた未来戦略課長

- ・ 総合政策審議会は10月12日に開催が予定されている。その際に各部会の提言を持ち寄ることとなる。それに向けて次の部会のスケジュールを決めたいが、ある程度メール等の交換も交えて詰めていきたい。

●山本部長

- ・ 9月上旬に部会外で下案を併せて、いろいろやりとりして最終的には10月上旬に部会でまとめるという形でどうか。

□真壁あきた未来戦略課長

- ・ それぞれの予定をお聞きして、日程調整を進めたい

□高橋あきた未来創造部次長

- ・ 今回は今後4年間の県の取組に対する提言をいただくこととなるので、その提言が戦略1の範疇にあるものなのか、全体に対する意見なのかということ意識しながら、作成にあたっていただけるよう、お願いする。

●山本部長

- ・ 続いて、議事（3）のその他であるが、他部会への意見提出として2件を挙げている。一つは部会の中で多くの意見が出されたふるさと教育に関する意見と、もう一つは三浦委員の意見をベースにした秋田の食に関する意見である。
- ・ この部会からの意見については、この二つを提出するということによろしいか。
- ・ よろしければ、事務局から何か連絡事項はあるか。

□事務局

- ・ 次回の日程について、10月の中旬ということであれば、議会日程の関係上10月2日の開催ということとなる。
- ・ 委員の日程が合わなかった場合には、9月12日の開催の可能性についても検討するので、後ほど各委員の日程について確認したい。

□事務局

- ・ 長時間にわたり熱心なご審議ありがとうございました。
- ・ 以上をもちまして第3回ふるさと定着回帰部会を閉会します。

以上